

花

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2019.SUMMER



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No.

29

授業紹介 - 教育の現場 -

学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

シリーズ 恩師と語らう

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

OBOG・教員によるコラム

基金関係のお知らせ

Campus Information

特集 学生をアクティブに 加速する教育再生



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY



Cover Photo

学生達の主体的なグループ学習を快適かつ機能的な環境で促す中央図書館ラーニング・コモンズエリアの一角。従来の図書館が持つ「静」のイメージを覆す、アクティブに学生達がディスカッションする「動」な光景が印象的。

2019.SUMMER vol.29

CONTENTS

- 03 特集
学生をアクティブに
—加速する教育再生—
- 08 授業紹介 —教育の現場—
- 09 Enjoy! 学生ライフ
- 10 注目される研究報告
- 12 シリーズ 恩師と語らう
- 13 活躍する卒業生紹介 “学びの先”
- 14 OBOG・教員によるコラム
- 15 基金関係のお知らせ
- 16 Campus Information

新潟大学SNS公式アカウントが更に充実！

従来のfacebookに加えTwitterとInstagramも公式アカウントがスタート。更に本学の取り組みや普段の様子、フォトジェニックな風景などをお楽しみいただけます。

f @niigata.univ
t @Niigata_Univ_O
i @niigata_university

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題 字
野中浩俊(のなか ひろし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

特集

学生をアクティブに —加速する教育再生—

2015年に採択された文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP）テーマⅣ長期学外学修プログラム（ギャプイヤー）」。
激変する社会に耐えうる主体的学修者を育成するため、学生の主体性や学修への動機づけを高めることを目的に据えている。
総合大学としての本学の利点を活かし、多様な学外学修先を想定した長期学外学修プログラムをはじめ、
初年次教育改革と学事暦改革などを経て、転換教育体制の構築は加速している。中間評価では採択校の中で数少ないS評価を受け、
最終事業年度を迎える今、そのプロセスと成果、今後に見据える新潟大学の教育プログラムの未来に迫る。

社会の変化と

大学教育に 向けられた期待

グローバル化や情報化の進展、
少子高齢化や地方の衰退、雇用
環境の変化や格差の広がりなど、
日本社会は急激な変化の渦中に
ある。こうした状況の中で、社会
側から大学教育への期待や要求は
増しているように思われる。
「それなりに安定し余裕のあつ
た時代では、大学に入学し卒業
後、名の通った企業に就職すれば、

退職まで安定した暮らしが送れ
るというコースは標準化されてい
ました。しかし、現代はそれよう
な先行きは不透明になり、大企
業でも倒産するという時代です。
こうした状況下で、大学で何を
教え、どのような人材を輩出す
るかについての関心は非常に高まっ
ています」

こう語るのは新潟大学の副学長
（学務担当）であり、教育・学生支援機
構の副機構長である松井克浩教
授。特集制作に当たり話を聞いた。
「大学で教える側から見ても、
学生にどのような力をつけて社会



左) 副学長(学務担当) 松井克浩教授
右) 学外学修支援部門長 木村裕斗准教授

に送り出すかという問題は、より
重要性を増しています。そこで課
題になるのは、学生に求められる
のはどのような能力で、それはど
のような方法で修得できるのかと
いうこと。近年の議論で重視され
ているのは、想定外の困難に際し
て的確に判断を下すための力、

新潟大学における AP事業の取り組み

2015年度

●AP事業採択

文部科学省より、テーマⅣ「長期学外学修プログラム（ギャプイヤー）」の実施校に選定

●AP事業推進協議会の設置

AP事業の取り組みを推進し改善していくため、外部の方を招いて、2015年12月からAP事業推進協議会を開催

2016年度

●学内推進体制の構築

学内外と連携を取りながら、事業を推進するため「学外学修支援部門」を設置

2017年度

●クォーター制導入

学事暦をクォーター制に移行

●連携教育支援センターを新設

教育・学生支援機構に連携教育のさらなる機能強化を図るため「連携教育支援センター」を新設

2018～2019年度

●教育の質的転換

- ・激変する社会に耐えうる主体的学修者を育成する全学的な教育・支援体制を構築
- ・教職員の学修デザイン、学修支援に対する意識の転換を図る

学生の声

工学部電気電子工学科4年
新井裕介さん

■参加したプログラム

私は2年次に『長期・企業実践型プログラムⅠ・Ⅱ』に参加しました。『Ⅰ』ではビジネスメールの書き方や社会人マナーなどを学び、『Ⅱ』では夏休み期間中の1カ月間、東京の凸版印刷株式会社で就業体験をしました。配属されたのはIT事業を担当する部署で、ウェブコンテンツやプログラミング制作の課題に取り組みました。

■どのような発見や気づきがあったか？

実際に業務を任せられ課題に挑戦することで、自分が持っていない知識や技術、社会で働くことの意味や、企業の雰囲気を実感することができました。また、実習後には他企業に行った学生が集まり成果報告会を行いました。そこでは自分が行っていない企業の情報も詳細に共有することができ、様々な社会の現場に対する知識を得ることができました。

■前後で意識の変化は？

卒業後に社会で働くこと、将来のイメージがよりはっきりしました。周囲との協働作業で、他者理解が重要だということを知り、その後の学生生活の目標が明確になりました。



「学生は社会の現場には明確な正解がないということに気付くでしょう。そこで自分の課題を見つけ、何のために大学で学ぶのかという動機を持たせることが大きなねらいです」（松井教授）。

「学外学修というインターンシップだけがフィチャーされがちですが、それだけではなく、学生に“大学の専門性を活用して社会に貢献しよう”と考えさせることが重要です」と、説明するの

は木村裕斗准教授。1、2年生の時点で自分は社会に対して何ができるのかを考え、何ができないのかというリアリティショックを感じることが、その後の成長につながるという。

では、学生が社会人基礎力、課題発見力を身に付ける必要性に気付くための場として、新潟大学ではどのようなプログラムを実施してきたのか。次に象徴的な講義を活動例としていくつかあげてみる。

創生学部『フィールドスタディーズ』
創生学部の1年生を対象にし、地域や産業界など様々なフィールドでの体験的学修を通じ、日常生活に密接に関連する産業・地域構造の理解を図る。学外で取り

組むプロセスを通じて多様な見方・考え方に触れ、業界・業種、自治体の現状と課題を把握する。最後に、学修総括をプレゼンし、レポートにまとめる。2018年度は16機関から協力を得て開講された。

工学部『キャリアデザイン・インターンシップ』
工学部の協創経営プログラムで実施。企業と社会福祉施設を体験的に学ぶことにより、自らの将来設計（キャリアデザイン）をより具体的に考える機会とする。また、工学とは実社会で役立つ学問分野であることに気付く、工学部における今後の勉学意欲の向上をねらいとしている。

「自律と創生」を体现し、主体的学修者を育成するための転換教育体制を構築。



『フィールドスタディーズ』でのプレゼンテーション



『キャリアデザイン・インターンシップⅠ』での成果発表

新潟大学「大学教育再生加速プログラム（AP）」の取り組み

クォーター制導入を起点とした初年次教育の見直し

キャンパスの枠を越えた連携強化

総合大学の多様な専門性を活用した学外学修プログラム

初年次学生対象

〈地域〉に
密着した学修
社会人として
必要とされる汎用的
能力の早期育成

〈産業界〉に
コミットした学修
学問と実践を
結びつけた専門性への
意識づけ

〈海外〉に
意識を向けた学修
異文化体験を通じた
学修意識の
醸成・動機づけ

全学生対象

〈学生企画〉の
実現による学修
学生の
企画実施による
主体性伸長

学生をアクティブにする教育再生に向けて

多様な
学外学修プログラムの
開発

全国の大学に先駆けた
初年次教育改革の
モデル化

全国12校(本学含む)と
連携した
情報共有・発信



学外学修『ダブルホーム活動演習』の様子

学外の多様な フィールドで 学びを深める

文部科学省による「大学教育再生加速プログラム（AP事業）」は、高等学校や社会との円滑な

正解の見出しがたい問題に他者と協力しながら、挑戦し乗り越えていく能力です」
高等学校までの教育は、教科書の中に必ず正解が書かれていて、それらを効率よく暗記できれば良い成績がとれるのがまだ一般的スタイル。しかし、大学で学ぶ、研究するということは、正解のないものに向き合い続けるということ。かつてない激動の中にある現代社会の現状を鑑みると、大学教育にはこれまで以上に「主体的な学修」を促す授業への転換が求められている。

接続のもと、入口から出口まで質保証の伴った大学教育を実現するため、先進的な取り組みを実施する大学等を支援する事業だ。新潟大学は2015年度に「テーマⅣ長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）」に採択された。これは学生が地域や企業、海外などの社会の中で能動的に学ぶことで、「社会人基礎力」「汎用的能力」「課題発見力」「課題解決力」を身に付けることを目的に、長期にわたる「学外学修プログラム」を開発・実施するというもの。入学直後等の時期に、学生を一定期間学外で学ばせることにより、主体性を育ませようというものだ。まさに新潟大学の教育理念である「自律と創生」を体现する内容である。



『新潟産業フィールドワーク』の様子

初年次の教育改革と学事暦改革など AP事業を推進する制度が最上位評価を獲得。

全学部『学校フィールドワーク
A・B』※2019年度から『学校支
援フィールドワークA・B』に変更

全学部の教職課程を履修する
学生が対象。新潟市内の小学校・
中学校・高等学校で学校を取り
巻く環境を理解する。授業など
の教育活動に限定せず、学習支
援の補助、部活動の見守り、清
掃活動など、日常の学校運営全
般に関わることを体験する。

「小中高校は教員だけで運営さ
れず、様々な方の協力で成り立っ
ている」というシステムを身をもつて
学びます。教職経験の豊かな教
育コーチから活動へのアドバイスや
学校との調整を行ってもらっていま
す」(木村准教授)



学外学修『学校フィールドワークB』の様子



「長期・企業実践型プログラム」のグループワーク

全学部『長期・企業実践型プロ
グラムⅡ』

企業での実習と大学での学修
支援を組み合わせた本格的な長
期インターンシップ。

「首都圏や県内の民間企業・
団体で1カ月以上、就業体験す
る密度の高いプログラムです。Ⅱの
実習では、実際に企業の業務を
任されたり、課題に挑戦したり
しながら、社会で活躍するため
の力を身につけてもらいます。1・
2年次学生を対象にした正課の
長期プログラムとしては国内でも
早い段階から取り組んでいます」
(松井教授)

経済界の声

アクシアルリテリンググループ
原信ナルスオペレーションサービス株式会社
人事教育部教育企画室 室長 小山田 淳 様



■学生受け入れの「意義」と「難しさ」

受け入れる意義は多くありますが、一番は職業観の幅を広げる、つまり自分が仕事
とどう関わっていきたいかを実際の企業で先輩社会人と一緒に体験することで、引き
出しを増やしてもらうことです。それが就職後のミスマッチの防止あるいは固定的業種
イメージの払拭につながっていき、企業側の受け入れ甲斐につながっていると思います。
難しさはその意義を受け入れ側の社内でも共有していくと感じています。

■大学への期待

もっとより多くの企業(学生側の選択肢)にも参画いただき、多くの学生に長期的な
学外学修を体験してもらいたいです。

■(プログラムを通して)学生に身に付けてほしい力

「考え続ける」こと、そして考えたら「やる」人です。コミュニケーションも協調性も大
切ですが、それはやり始めた後に必要なスキルです。まずはやらないと始まらないので、
遠慮せず実行してほしいです。そのためには、軽傷ですむ学生のうちからたくさんのこと
をやって、多くの失敗経験を重ねてほしいです。

を行って、事業を推進しています」
(木村准教授)

**長期学外学修を
発展的に
普及するために**

新潟大学において高い成果を上
げた「テーマⅣ長期学外学修プロ
グラム(ギャップイヤー)」は、今
年が事業の最終年度になる。「教
育の質的転換」が必要とされる
今、どのような展望を見据えてい

るのだろうか。

「長期学外学修の発展的普及活
動は今後も続けていきます。学
内連携と支援体制を強化し、各
教育プログラムと本事業の連動性
を検討していくことも必要でし
ょう。また、補助期間終了後に向
けた全学開講科目の再検討にも
取り組まなければなりません。
大切なのは、この事業を通して獲
得した成果をどうやって大学全体
に還元していくかということ。開
講科目を単純に増やすということ

AP事業で得た成果を大学全体に還元。 長期学外学修を推進することで 大学の教育が変わり、学生の学び方が変わる。



「長期・企業実践型プログラム」のグループワーク

全学部『学生企画プロジェクト』
※2019年度から『ミニティーン
ターンシップ入門・実践』に変更

学修計画・内容・評価の設計
を学生が主体的に開発し、プロジェ
クトを実行する。

「県外の高校に足を運び、高校
と大学の学びの違いを説明する
ワークショップを企画したり、小
千谷市の祭りをSNSでPRす
るなど内容は実に多彩。AP事
業自体をテーマにした高校生と大
学生の交流イベントも企画・運営
されました」(木村准教授)

新潟大学大学教育再生加速プ
ログラム(AP)のウェブサイトでは、
このような科目を経験した学生と
動画を作り、学生と協働して広
報するという取り組みを行っている。
学生による座談会ページもあ
り、初年次学生に興味と関心を
持つてもらえるような内容だ。
[http://www.iess.niigata-u.ac.jp/
ap/](http://www.iess.niigata-u.ac.jp/ap/)

**本学の取り組みは
最上位評価の
S評価を獲得**

このような新潟大学における取
り組みは大学教育再生加速プログ

●セメスター制(2016年まで)			
4,5,6,7月	8,9月	10,11,12,1月	2,3月
前期	夏期休業	後期	春期休業

●クォーター制(2017年から)				
4,5月	6,7月	8,9月	10,11月	12,1月
第1ターム	第2ターム	夏期休業	第3ターム	第4ターム
				春期休業

長期学外学修の実施、夏期休業を含んだ留学体験

ラム委員会(日本学術振興会)の
中間評価において、「計画を超
えた取り組みであり、現行の努力
を継続することによって本事業の
目的を十分に達成することが期待
できる」として、最上位評価であ
るS評価を受けた。S評価を受け
た取り組みは全体で77件のうち14
件(18.2%)、テーマⅣでは12件のう
ち1件(8.3%)となる。

「個別の講義の内容はもちろんで
すが、大きく取り上げられたのは
初年次の教育改革と学事暦改革
といった仕組みづくりの部分。
APプログラムを進めていくための
ベースの制度を作ったことが評価さ

は、激変する社会に耐えうる主体
的学修者を育成する全学的な教
育と支援体制の構築に向けて着
実に歩みを進めている。

AP事業テーマⅣ採択校合同執筆書籍 『長期学外学修のデザインと実践ー学生をアクティブにするー』を出版

本学は、本事業における取り組みや情報発
信の構想が評価され、2016年7月、AP事業の
選定大学等における取組成果の社会への発
信や、既選定校への普及などの活動を行う中
核としてテーマⅣの幹事校に選定されました。
2019年5月、情報発信の取り組みとし
て、大学教育の再生に向けて、全国の高等
教育機関と連携しながら、長期学外学修を

はじめとする新しい教育システムを社会へ波
及させることを目的に書籍を出版しました。
プログラムの政策的・学術的背景について
理論的に解説するとともに、AP事業テーマ
Ⅳに採択された国公私立大・短大・高専計
12校全てのそれぞれの挑戦的な実践事例
の詳細と、そこで生じた成果と課題を議論
したものです。



編著者:澤邊潤(人文社会科学系准教授)、木村裕斗
(教育・学生支援機構准教授)、松井克浩(人文社会
科学系教授・副学長[学務担当])
発行:東信堂(全国書店やWebサイト等で購入が可能です)

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学のみならずサークル活動を始め様々な課外活動で活躍しています。このコーナーでは、そんな青春の1ページをお届けします!

CAMPUS TOPICS

新入生・在学生・地域による共同キャンパスクリーンデーを実施しました

5月15日(水)に、五十嵐キャンパス及び五十嵐キャンパス周辺地域で「新入生・在学生・地域による共同キャンパスクリーンデー」を実施しました。学生・教職員・地域の方々が一体で行う清掃活動を通じて、新入生及び在学生の環境意識の醸成や、学年・学部・学部の枠組みを超えた学生間や地域の方々との交流等を目的とし、平成20年度から継続して行っており、今年で12回目となりました。当日は、学生・教職員、新潟市職員、大学周辺の自治会の地域関係者ら約180名が参加しました。参加者はグループに分かれて五十嵐キャンパス周辺のゴミステーションや周辺道路、大学構内のごみ拾いを行い、晴天のもと1時間ほど汗を流しました。参加した学生からは、「地域の方と交流をしながら清掃ができて良かった」「周辺地域やキャンパスがきれいになり気持ちがいい」などの感想が寄せられました。



北方文化博物館の名物フジの酵母による日本酒醸造 酵母採取に携わった学生らが学長へ報告



北方文化博物館(新潟市江南区)の名物でもあるフジの花から採取した酵母による日本酒造りが、本学を含む産学官連携において3年の試行錯誤を経て今年成功しました。その酵母の採取と改良に携わった農学部の鈴木一史教授と杉本華幸准教授、その研究室に所属するミス日本酒新潟代表でもある大学院生の鈴木聖袈さんを含む学生達が、高橋学長を表敬訪問し、瓶詰めされた日本酒を学長に贈呈し、難しいと言われるフジの花からの発酵力のある酵母採取に至るまでの経緯や苦労等について報告しました。大学院生の鈴木さんは学部生時代からこの研究に携わり、完成を迎え感無量の心境を語りました。学長からも「研究はとにかく試行錯誤を繰り返して1日ではなし得ないもの。この経験は社会に出てから研究以外でも役に立つ」と激励の言葉が贈られました。

CIRCLE PICK UP!

国際ボランティアサークル 留学生と対等に接することで共に成長する

36の国や地域から550人の留学生が勉学・研究に勤しむ国際性豊かな新潟大学のキャンパス。慣れない土地での留学生の生活には不安も伴う。そんな留学生の不安を払拭し、新潟でのキャンパスライフを謳歌できるようサポートするのが国際ボランティアサークルだ。現在の部員は232人と、本学公認サークルでは屈指の人数。週2、3回のペースで留学生との交流イベントを企画運営する。「イベントは、留学生とその国の料理を作ったり、留学生に日本文化を体験させたりなど大小様々なものを開催しています」。留学生との交流という、高校ではあまりなかった活動に惹かれる他に、語学力向上やその先に留学を見据えるなどサークルの門を叩く学生のモチベーションは様々だ。「どうしても留学生をゲストとして扱いがちになりますが、対等な学生として接することをサークル全体で心がけています。言葉の壁や価値観の違いなど大変な部分もありますが、逆に留学生に教えられることも多く、全てのサークル員が日々成長してます。世界に友達の輪も広がり自分の視野も広がるのが、留学生交流の醍醐味ですね」

積極性や相手の立場に立つ重要性を学ぶことができました。

サークル長 遠藤絢子さん(人文学部3年)



↑200人を超えるメンバーが週2、3回のハイペースで交流イベントを企画運営



丹羽正夫 教授

Masao Niwa

Profile

博士(法学)。専門は刑事法学。刑法と刑事政策について研究する。



法政演習Ⅰ(刑法・刑事政策2019)

刑法の解釈論や犯罪対応に有効な対策を検討
楽しみながら議論の仕方を身に付ける

対象は法学部の3年生。刑法および刑事政策の諸問題を題材に刑法の解釈論や犯罪対応のための有効な対策を検討する。担当の丹羽正夫教授に聞いた。

司法制度の全体像をつかみ、刑事政策の重要問題に関する基本的な考え方の理解にも取り組みます」
演習は少人数のゼミスタイル。学生たちは全員で議論する。「テーマについて他人事ではなく、自分の視点で考えることが大切」と丹羽教授は説明する。議論の途中で教授が繰り返し指導

STUDENTS VOICE



左:阿部彩絵さん
(法学部3年)

右:福井進矢さん
(法学部3年)

「刑法や犯罪に関わるニュースや話題を題材に議論することで、2年次までに学んだ基礎の知識を発展的に捉えることができます。丹羽先生は議論自体を楽しむことを大切にされた講義を行ってください」(阿部)
「議論における問題提起の大切さを学び、ディスカッションをしています。講義中、学生同士をただ名で呼ぶ雰囲気の良い魅力です」(福井)

するのは分かりやすい質問の大切さだ。
「法に関わる議論は、抽象的で哲学的な問いかけが多くありがち。質問者は回答者が具体的に身近な問題として考えられるような質問をするのが重要です。複雑で難しく見える問いでも、構成要素を細分化することで答えやすい質問にすることができます。でき

るだけ明確な言葉にキーワード化して表現することも大切です」
演習中、学生たちはお互いをあだ名で呼び合う。ユニークな演習スタイルには「議論を楽しむ」という丹羽教授のポリシーがある。
「他人行儀なやりとりでは議論は面白くなりません。近しい人間関係作りも演習の一環。演習をきっかけに仲良くなり、卒業後も交流が続いてほしいという願いもあります」
演習を通して学生たちがどのような力を身に付けることを期待するのか。
「卒業後の社会で直面する問題に対しても、ここで議論したスキルや物の見方が役に立てばと思います。ひとつの問いに対し簡単に答えを出さず、多角的な見方ができるようにしてほしいと考えています」

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

vol.28・法学部



新潟大学附属図書館

学術書・専門書多数。地域に開かれた明るく開放的な図書館です。

卒業生・一般の皆様もお気軽にご利用ください!

貸出用の図書館利用カード作成できます

- 貸出期間 2週間
- 貸出冊数 新潟大学カード会員:図書10冊
卒業生:図書5冊
一般の方*:図書5冊 *新潟県内に住む18歳以上の方が対象

開館時間: 平日 8:00 ~ 22:00
土・日・祝日 10:00 ~ 22:00
※学生休業期間については開館時間を短縮します。
※本学の定期試験期間中は、閲覧席利用をお断りすることがあります。
休館日: 年末年始等

開館スケジュールや利用方法は
附属図書館ホームページをご覧ください。

新潟大学 附属図書館 検索

お問い合わせ先 新潟大学中央図書館 情報サービス係 TEL 025-262-6221 / FAX 025-264-2218 ホームページ <http://www.lib.niigata-u.ac.jp/>

新潟大学周辺の駐車場をakippaで予約

ご友人やご家族などの来客用に便利です!

あきっぱ 検索

一人暮らしにオススメのお部屋探検!

家具家電付 Wi-Fi完備 セキュリティ 食事付

新潟大学周辺のお部屋探しはお任せください!

新潟大学 受験生限定! W合格前予約 もOK!

2020年春、食事付き学生マンション完成予定108室

LIVING GALLERY 新潟大学前店 国土交通大臣免許(5)第5854号

0800-100-4284 リビングギャラリー新潟大学前店 検索

〒950-2111 新潟市西区大学南1-7802-12 営業時間:9:00~17:00 定休日:毎週水曜日

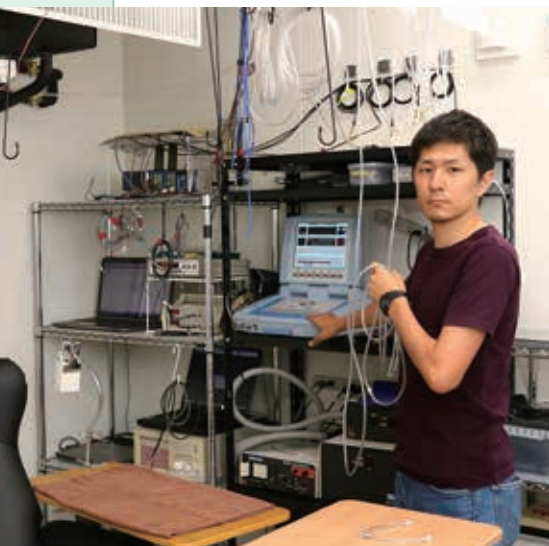
人文社会科学系(教育学部)
天野達郎 准教授

Profile | 博士(学術)。専門は運動生理学。発汗や皮膚血流について研究する

研究
課題

運動と体温調節

発汗能力に個人差があるメカニズムを解明 研究成果を教育やスポーツ現場に還元する



専門家と協力しながら薬理的に発汗能力を調べる研究も行っている。

「汗は汗腺から出ますが、そこでは様々な受容体や神経、ホルモンが関係しています。発汗作用について有名なのは、神経伝達物質アセチルコリンに対して反応する受容体ですが、実験の結果、それだけでは説明できない領域があることが分かりました。汗は日常生活において様々な扱われ方をし、汗をかいた方がよい時と、抑えたい場面というものがあります。運動中に汗をかくのは良いことと言われていますが、緊張した時にかく汗にはネガティブなイメージがあります。汗を生成するメカニズムが神経伝達レベルで分かると、さらなる成果が期待できると思います」

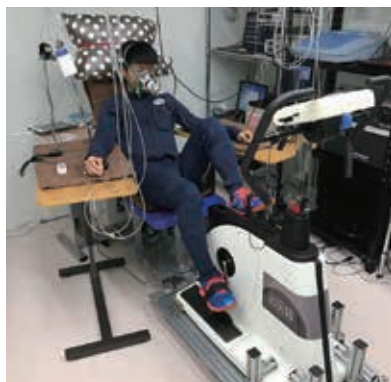
ヒトを対象として、暑熱ストレスや運動に対する体温調節反応に関する研究を進める天野達郎准教授。

「体温上昇を抑制する機能が発汗です。しかし、汗をかく能力には非常に個人差があります。日常的に運動する人は、しない人に対して発汗能力が高い。その能力の違いはどこから生じるのかを明らかにする研究をしています」

実験はアスリートや学生の協力と理解のもと、空間内の温度や湿度を調節できる専用の研究施設で行う。協力者の皮膚に発汗カプセルを貼り付けて水分量を計算。さらに直腸や食道など深部の体温、心拍数や血圧なども計測し総合的に運動中の体の反応を評価していく。一方で、



教育学部内にある実験室



運動時の発汗などの体温調節実験の様子。皮膚の温度を一定にする専用スーツを着用している。スーツの下にはたくさんのセンサーがあり様々な測定を行っている



イオントフォレーシスという方法を用いた発汗の薬理実験の様子

マンスにも汗が関わっている可能性があります。また、熱中症になりやすい方たちを助けるサプリメントや食事法の開発に貢献できるかもしれません」

研究は学生と協力しながら行われる。彼らにとっては最前線の研究を経験する貴重な時間だ。実際の実験を通してリアルな生体反応についての経験を深め、高い学問的知識・経験に裏付けられた研究者や教員を目指すことができる。また学校現場で使える新しい熱中症予防に関する研究もスタート。様々な分野での発展性が期待できる興味深い研究だ。

自然科学系(農学部)
森口喜成 准教授

Profile | 博士(農学)。専門は森林遺伝育種学。樹木の品種改良や種苗生産、遺伝的特徴の解明等を行う

研究
課題

花粉を飛ばさない 無花粉スギの普及に向けた研究

DNA解析による 大幅な育種期間の短縮を目指す

スギ花粉症の罹患率は年々増加しており、現在では国民の4人に1人がスギ花粉症と言われ、深刻な社会問題となっている。スギは成長が早く、生育適地が広い。育林技術も確立されていることから、花粉症が問題となっている現在でも日本の重要な造林樹種である。そのため、私たち日本人は、これからもスギと上手に関わっていく必要がある。森口喜成准教授は花粉を全く飛ばさない「無花粉スギ」に注目し研究を進める。

「無花粉スギは1992年に平英彰博士が富山県で初めて発見し、単一の劣性遺伝子(雄性不稔遺伝子)によって生じることが分かっています。そのため、父親と母親の双方から雄性不稔遺伝子を受け継いでペアにならないかぎり、子供は無花粉スギになりません。平博士が新

潟大学に着任された後、当時の学生だった私が無花粉スギ(新大1号)を偶然見つけたことにより、研究室をあげての無花粉スギの探索が始まりました。今から約20年前のことです」

無花粉スギの探索は平博士が退職するまで7年間続けられ、最終的に12個体の無花粉スギが発見された(新大1号~12号)。しかし、自然界に数千本に1本と推定されている無花粉スギの探索は多大な労力と年月を必要とした。

現在、無花粉スギの種子生産はいくつかの県で開始されているが、無花粉スギの育種母材が少ないことと、優れた新品種を開発してそれらの種子生産を行うまでに膨大な年月を要すること、種子から育てた苗の生産効率が悪いことが課題になっている。そこで新潟大学では、農研機構生研支援センター『イノベーション創出強化研究推進事業』の支援を受け、森林総合研究所や新潟県森林研究所等と連携し、無花粉スギの普及にかかる年月をDNA解析で大幅に短縮するべく、DNA解析による無花粉スギの識別技術



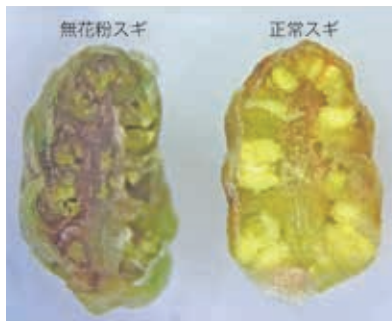
無花粉スギは単一の劣性遺伝子によって生じる

の開発や新品種の作出に取り組んでいる。

「近い将来、芽生えの段階でDNA解析によって無花粉スギが判定できるようになるでしょう。育種に時間のかかる樹木では画期的な技術です。新たに供給されるスギ苗が全て無花粉スギとなるように、今後も研究を続けていきます」



農学部の研究施設で無花粉スギの苗木を測定する



花粉を全く飛ばさない無花粉スギ

企業の技術向上を目指す産学官交流ネットワーク

新潟大学産学連携協力会

新潟大学地域創生推進機構と産業界等が密接に連携し、産業の活性化、高度化、地域社会の発展を目的に技術の向上及び地域連携を図ります。

詳細をお知りになりたい方、加入ご希望の方は、ホームページをご覧ください。

新潟大学産学連携協力会

主な事業

講演会
セミナー
研修会
技術相談
など

検索 <http://www.ircp.niigata-u.ac.jp/kyouryokukai/>

お問い合わせ先 新潟大学産学連携協力会(新潟大学地域創生推進機構内) TEL 025-262-7553 FAX 025-262-7577 Email unico@ccr.niigata-u.ac.jp

ときめく「知」の交流

地域社会への知的貢献を行う拠点として、「新潟大学駅南キャンパスときめい」とが設置されています。

新潟駅直結のPLAKA1に位置する抜群の利便性のほか、約610m²(185坪)の広さに、大小の会議室、展示イベント等に使用できる多目的スペースを提供しています。それぞれの会議室には大型スクリーン、プロジェクター等のAV機器が用意され、講義のほか、講演会やセミナーにも最適です。どうぞお気軽にご利用下さい。

お問い合わせ・お申し込みは 新潟大学駅南キャンパスときめいと

〒950-0911 新潟県新潟市中央区笹口1丁目1番地 プラカ1 2階
Tel:025-248-8141 Fax: 025-248-8144 E-mail: tokimate@adm.niigata-u.ac.jp



端正な顔立ちとスラリとしたスタイルでいて特長の空手は初段。県大会では2度の優勝という成績を残している



昨年のNHK連続テレビ小説『まんぷく』撮影現場でのオフショット。大人になった源役として物語終盤の重要な役柄を演じた



インタビューは都内田町の新潟大学東京事務所で実施。演技への思いと、大学時代の思い出を語ってくれた

俳優
にしむら もとき
西村元貴さん

Profile.
1990年、新潟県加茂市生まれ。2012年3月農学部卒業。女優の室井滋らが名を連ねる株式会社ホットロード所属。趣味は農作業、読書、旅行

いつも役に寄り添える役者でありたい

「やりたいことに 対して一歩を 踏み出せた場所」

け、3年生からは毎週レッスンに高速バスで通い、夜行で帰ってくるという生活。交通費はアルバイトで稼ぎました。学業との

役に没頭できること。正解がないことへの不安はつきまといいますが、どんな役が来ても芯の通った演技を目指しています」

「お芝居への興味は尽きません。今はどんな役にも挑戦したい。今度は映画の現場も経験したいんです。演じるという点では同じですが、テンポの速いドラマとは異なり、濃密な二時間を全員で作りに上げるという作業にも触れたい。どんな場面に置かれても、与えられた役に寄り添える役者でありたいと思っています」

Information

最新の出演情報などは下記WEBサイトをチェック!
■株式会社ホットロード
<https://hot-road.jp/>

卒業生と母校との絆、ポケットに「新潟大学カード」入会受付中!

新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、学部間の枠を超えた同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと提携してクレジット機能付きVISA国際カード「新潟大学カード」を発行しています。

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局
電話:025-262-7891
(受付時間 平日10:00~15:00)
E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp



”学びの先“ 活躍する卒業生紹介

新潟大学で”真の強さ“を学び、社会に羽ばたいた10万人を超える卒業生。社会で活躍する卒業生をご紹介します。

恩 師：吉原久夫 名誉教授 元・新潟大学理学部教授 × 教え子：三浦 敬さん 高橋 剛さん

撮影：カーブドットワイナリー
(新潟市西蒲区)

吉原 今日お呼びしたのは私の研究に深く関わってくれたふたり。研究に一番燃えていた時期にたくさん刺激をもらいました。

三浦 当時は、先生が新しい定理をどんどん作られた時期でした。

吉原 数学者の岡潔先生は「発見の鋭い喜び」という言葉を使われましたが、数学には激しい喜びがあつて、それが研究に向かうエネルギーになるんです。

高橋 確かに自分の発見でなくても感動がありますね。数学は勉強すること自体がおもしろいんです。

三浦 定理が完成すると「誰も知らないことを知ってしまった」という気持ちになります。半分くらいは間違っているんですが(苦笑)。

吉原 数学には芸術的で美しいと感じる瞬間があるんですね。そこには知的な調和があるんです。

高橋 そんな熱意の研究時代も先生は声を荒げたりしませんでした。

三浦 そういえば先生が逆に学生から怒られたことがありますね。

吉原 ある学生の間違った解答に対して厳しい言葉を発してしまっただけです。私も若かつたから「数学は正しいことが大事だ」とチクタク言っていました。その学生は怒ったんですね。私はそんな言い方をすべきではなかった。正誤はともかく、学生からしたら一生懸命考えたことなのです。

高橋 数学は細かいところを突きながら理解を確かめていくところ

シリーズ vol.28 恩師と語らう

師弟で懐かしむ当時の新潟大学



く行きましたよね。いつも先生が誘ってくださいました。

吉原 ふたりともすごく歌が上手。音程を捉えるのと数学をきくと理解する能力は似ているんじゃないかな(笑)。三浦君はシューベルトの『風』なんていう昭和の懐メロもよく知っていて。

三浦 いえいえ、先生の方がお上手ですよ。これは当時、先生の赤ペンが入った私の最初の論文です。今も大切に初心を忘れないようにしています。

高橋 私も今思うと先生は当時、随分人と違う視点で研究しておられたんだと思います。人と同じ問題意識だけではいけない。私もそうありたいと心がけています。

吉原 高橋君は当時、「将来はフィールズ賞(数学のノーベル賞と言われる)を取る」と言っていました。茶髪でピアス姿もよく覚えてますよ(笑)。数学には強い意志と工夫が必要ですね。私は登山が大好きなんです。登山と数学は似ています。初めての山に登るときは、まず登山口を探さなければなりません。それは数学では研究分野を決めるということ。少し高い所まで行かないと自分の道が正しいかどうか分からないし、間違っていたら戻らなければなりません。途中で見える素晴らしい景色は、結果が上がついているという実感です。

高橋 私は釣りが趣味ですが、魚を釣るために工夫する楽しさは数学と似ているかもしれません(笑)。

三浦 私はマラソン。コソコソ続けることが似ていますか(笑)?

吉原 (笑)ふたりとも健康に気を付けて今まで通り頑張ってもらいたいですね。今後の活躍を楽しみにしています。



よしはらひさお
吉原久夫 名誉教授

理学博士。専門は代数幾何学。昭和46年、埼玉大学理工学部卒業。同51年、京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得。その後、同57年に新潟大学教養部助教授、平成5年に同大学教養部教授。教養部解体に伴い、理学部教授に。平成25年定年退職。



みうらけい
三浦 敬さん

博士(理学)。平成8年、新潟大学理学部数学科卒業。同10年、同大学院博士前期課程修了。同13年、博士後期課程修了。現在は学部工業高等専門学校教授。新潟県三条市出身。



たかはしけん
高橋 剛さん

博士(理学)。平成10年、新潟大学理学部数学科卒業。同12年、同大学院博士前期課程修了。同15年、博士後期課程修了。同26年から新潟大学に赴任。現在は工学部准教授。

一学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、
「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

- 目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、就学支援事業を行います。
令和元年度は、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」及び「新潟大学学業成績優秀者奨学金」に支援を行っております。

■寄附者名簿 (H31.3～R1.5寄附入金分) ※(50音順 敬称略)
〈個人〉石田 武裕 岡村 光展 柏木 道子 小林 七雄 小林 義夫 佐藤 純一 古川原 誠 松岡 琢磨 松澤 澄江 吉塚 康一 匿名希望 3名

新潟大学基金

- 目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (H30.9～H30.11寄附入金分) ※(50音順 敬称略)
〈個人〉池内 健 石田 武裕 板垣 江代子 岩田 和雄 小野 秀平 菊池 透 木之井 ミツ 小林 義夫
斉藤 百合子 笹森 周 佐藤 和子 高橋 堅太郎 中川 利夫 畠山 貴明 波多野 優子 藤田 澄子
古川原 誠 松井 美津子 宮島 弘明 森 正勝 匿名希望 13名
〈団体〉株式会社中越加工 新潟県厚生農業協同組合連合会 新潟大学大学院技術経営研究科有志

新潟大学サポーター倶楽部

- 目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿 (H31.3～R1.5寄附入金) ※(50音順 敬称略)
〈個人〉岡村 光展 小林 信一 廣澤 利幸
〈団体〉株式会社ウィザップ NST新潟総合テレビ
有限会社エアプランニング 株式会社大原鉄工所
株式会社カネコ商会 グローバルウェーブ・ジャパン株式会社
さくら皮膚科医院 佐藤食品工業株式会社
株式会社ジェイ・エス・エス 株式会社新越ワークス
総和建設株式会社 株式会社ナカムラ
新潟ニッタン株式会社 日清医療食品株式会社中部支店
畠山産婦人科クリニック ひろさわ内科医院

最新の会員名簿は、以下のURLからご覧いただけます。
<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

新潟大学古本募金

- 目的 皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附されます。
寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられます。

■寄附者名簿 (H31.3～R1.5寄附入金分)
〈個人〉30名 〈団体〉9団体

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

問合せ先 新潟大学サポーター連携推進室 【TEL】025-262-5651・6010・6356 【e-mail】kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp 【HP】<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>

新潟大学
古本募金

読み終えた本が募金となって
学生の修学支援などに役立てられます

「新潟大学に寄附したい」
とお伝えください

お申込み 新潟大学古本募金 0120-29-7000 (受付) 9～18時
(運営) 嵯峨野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号

企画 新潟大学サポーター連携推進室 TEL. 025-262-5651, 6010

真の強さを学ぶ。
新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

新潟大学キャリアセンター
CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、
学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

OB・OGの皆様のご登録をお待ちしています！

お問い合わせ先 新潟大学キャリアセンター TEL : 025-262-6087 FAX : 025-262-7579 E-mail : shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

今回のテーマ 「暑すぎる日本の夏をどう耐え凌ぐか」

「こ最近の夏の暑さが耐えられない。去年の夏も、アナウンサーの宇垣美里さんがラジオで「こんなに毎日40℃超えたらもう生命の危機だし、夏っていう既存の概念にはあてはまりきらないですし、新しく『烈(れつ)』っていう季節を付け加えませんか？ 春・夏・烈・秋・冬で季節も5期制にしましょうよ」と提唱していて、完全に正しいことを言ってるなこの人と思った。自分なりに、今年は猛暑(新季節で言うところの『烈』対策を講じている。それが「昼心霊スポットめぐり」だ。肝試しなんて怖がりの自分には無理だと思ってるあなた、子供の頃無理やり連れていかれた肝試しのことを思い出すだけで鳥肌がたってしまうあなた、その寒気や悪寒を酷暑対策に利用してみてもどうだろうか。

特に私が推奨するのは「昼心霊スポット巡り」である、「昼酒」や「昼飲み」のように、まだ明るいうちに心霊スポットに行ってしまうのは、真夜中に行くより全然怖くないし、写真に心霊が映り込む可能性も低い。帰り道に

その心霊スポットの近くでおいしいご飯を食べることだってできる。これは完全に持論なのだが、心霊スポットが多いエリアは同様にパワースポットと言われる場所也多かったりする。新潟だと新潟市の西蒲区のあたりは「ホワイトハウス」や「日蓮聖人の岩屋」「赤い橋」など心霊スポットが多い地域とされるが、パワースポット目線で見れば角田山から弥彦山にかけては昔から修験者が多く修行の場所として選ばれてくるといふスピリチュアルスポットなのだ。夜だと怖くて全然周りをみる余裕がない場所も、明るい昼間に訪問すれば、ちょっとした立て看板の説明文を読むだけで、その土地や場所に関する歴史を大いに学ぶこともできる。

ただ、同様に注意も必要だ。明るいうちからとってそうだった場所を甘くみてはいけないことも、経験上私は知っている。先日、東京都の八王子にある某所を訪問した際は、詳しい説明は避けるが、少し偶然とはいえ切れない事柄が立て続けに起こり、正直ずいぶん怖い思いをしてしまった。7月の中頃とは思えないほどの寒気を感じ、帰りの車中もなぜかエアコンを切った心まで帰ってきたほどだ。

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイデアを綴るリレー式コラム。第12回は工学部です。

第12回 ● 工学部 列車のガタン・ゴトンという音

列車に乗るとガタン・ゴトンという音が聞こえることがあります。昔は必ず聞こえたましたが、最近は聞こえない区間が結構あります。この音は、列車の車輪がレールとレールの継ぎ目を通過する際に、レールを叩くことで発生するものです。レールの継ぎ目は、騒音の他に乗り心地の低下やまくらぎの沈下などの原因にもなり、軌道の弱点箇所の一つです。そのため在来線のレールも、新幹線で採用されている継ぎ目の無いロングレールと呼ばれるものに交換されつつあります。ちなみに継ぎ目のある従来型の短いレールを定尺レールと呼びます。

定尺レールの継ぎ目には隙間(遊間)が設けられています。レールに日光が当たると、条件によってはレール温度が気温より20～30度くらい熱くなります。するとレールは伸びようとします。もし遊間が無ければ、継ぎ目前後のレール同士がぶつかって、レール内に大きな押し合う力(軸力)が発生します。その結果、図に示すようなレール(軌道)が左右に大きく曲がる「座屈(ざくつ)」と呼ばれる現象(鉄道分野では「張り出し」と言います)が稀に起こることがあります。遊間がある、ある程度のレールの伸びが許されるので、大きなレール軸力の発生が抑えられて座屈防止につながります。

一方、ロングレールには継ぎ目がありませんので、レールの温度変化はほぼそのままレール軸力の発生に直結します。すると、猛暑日には座屈を、厳寒期には大きな引張る力が働いてレール破断が生じる恐れが増します。これを防ぐ

阿部和久 工学部教授

専門は土木工学。研究分野は応用力学で、土木に関係する力学現象が対象。具体的なテーマの一つが鉄道で、その中でも主に軌道に関する力学問題に取り組んでいる。

には、まずはレール軸力を測り、座屈やレール破断の危険性を事前に予測することが有効と考えられます。しかし、既に設置されたレールの軸力を直接測る簡便な方法は、残念ながら今のところありません。これまでに色々な測定法が考案されてきましたが、測定開始時からの軸力変化しか測ることができなかったり、引張軸力だけが測定対象となる上に20～30mの区間にわたってレールをまくらぎから外す必要があったりと、どれも良い解決策にはなっていません。我国に鉄道が導入されて150年ほど経ち、多くの技術革新がなされてきましたが、簡便かつ高精度なレール軸力測定は未解決の難題として残されたままです。今後も日本のみならず世界中で様々な研究が行われています。

ロングレール軌道の座屈シミュレーション(変形を拡大)

新潟大学キャリアセンター
CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、
学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

OB・OGの皆様のご登録をお待ちしています！

お問い合わせ先 新潟大学キャリアセンター TEL : 025-262-6087 FAX : 025-262-7579 E-mail : shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

志望業界、企業で働く先輩に質問したい！

会社の中の様子について知りたい！

写真

新潟大学 CAN システム 検索 URL <http://www.career-center.niigata-u.ac.jp>

15 NIIGATA UNIVERSITY

NIIGATA UNIVERSITY 14

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

佐渡自然共生科学センター開所記念シンポジウム

『地域と共に作りあげる「自然共生科学拠点」を目指して!!』を開催しました

本年4月に佐渡島に設置した「佐渡自然共生科学センター」の開所を記念したシンポジウムを6月2日(日)に佐渡市内において開催しました。シンポジウムでは、高橋姿学長の開会挨拶の後、新潟県知事、佐渡市副市長そして文部科学省の渡辺その子審議官(科学技術・学術政策局担当)からそれぞれ祝辞が述べられました。続いて、崎尾均佐渡自然共生科学センター長から、活動紹介と今後の構想について説明があった後、総合地球環境学研究所の中静透特任教授から「森里海の恵みを科学する」と題して人間と自然の共生社会について基調講演が行われました。また、同センターの豊田光世准教授の進行の下、女優の中嶋朋子さんと、FM-NIIGATAパーソナリティの上村知世さん(本学卒業生)をゲストに迎えて「自然は感性のゆりかご」と題して人と自然との関わりについて特別対談が行われました。対談の中では、中嶋さんによる絵本の朗読も行われ、来場者にとっても日常の中にある発見や自然の感動などを改めて感じられる時間となりました。



平成31年度国立研究開発法人科学技術振興機構「ジュニアドクター育成塾」事業に採択されました



本学が提案した「自然と人の共生を科学する新潟ジュニアドクター育成塾」と題する企画が採択されました。「ジュニアドクター育成塾」とは、科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材の育成に向けて、理数・情報分野の学習等を通じて、高い意欲や突出した能力を有する小中学生を発掘し、さらに能力を伸長する体系的育成プランの開発・実施を行うことを支援するものです。本学の企画では、新潟県の豊かな自然を舞台に、本学の特色である研究分野や教育施設、留学生を活用し、自然・生物・人に関する課題をグローバルな視点で理解し、自然と人間を愛し、共生を実現する未来の科学人材を育成します。具体的には、佐渡自然共生科学センターを活用した「佐渡合宿」による研究体験、脳研究所を含む本学諸分野の授業により、データマネジメント力と課題発見力を高めたのち、自らが選んだテーマについて、研究体験と成果発表を行い、連携機関・企業を利用した体験も加え、課題解決力を育成します。また、ルーブリックによる評価基準や活動ノート作成により受講生の能動的学習を促し、修了後の科学への興味の継続性を担保し、高校・大学への進学へとつながる人材育成を目指します。

の能動的学習を促し、修了後の科学への興味の継続性を担保し、高校・大学への進学へとつながる人材育成を目指します。

駅南キャンパスときめいとにて『日本酒学』の取り組みを企画展示しています

駅南キャンパスときめいとにおいて、本学の日本酒学の取組について紹介するパネルや新潟県内の全酒蔵の酒瓶、酒器(レプリカ)を6月25日(火)から展示しています。この企画は、昨年、文部科学省の「情報ひろば」で展示していたもので、多くの方から好評をいただいたため、その後本年2月から5月末まで、地域の方などがご覧になれるよう本学中央図書館でも展示をしておりました。このたび、より多くの方にご覧いただけるよう、アクセスに便利な新潟駅に直結した本学の駅南キャンパス「ときめいと」で同年秋頃(予定)まで展示を行うことといたしました。「地方総合大学の強みを活かした、新たな学問分野『日本酒学』の確立と地域創生の取り組み」がテーマの本展示を、お近くにお越しの際はぜひご覧ください。



新潟大学
季刊広報誌



R I K K A 2019.SUMMER No. 29

発行/令和元年7月
編集/新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電話/025-262-7000
FAX/025-262-6539

Home Page <https://www.niigata-u.ac.jp/>
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp



新潟大学 Facebook
<https://www.facebook.com/niigata.univ>